

第 1 回敦賀市立地適正化計画策定委員会 会議録要旨

開催日時	平成 2 8 年 1 2 月 2 2 日 木曜日 午前 1 0 時～午前 1 2 時	開催 場所	防災センター 3 階 災害対策本部室
委 員	【出席】 全員（8 名） 【欠席者】 なし		
事務局	都市政策課		

1. 議題

（1）敦賀市立地適正化計画策定について

- 1）立地適正化計画の概要
- 2）敦賀市の基礎調査について
- 3）まちづくりの課題（基礎調査の結果から考察）
- 4）計画策定の全体スケジュール
- 5）その他

2. 会議内容要旨

（1）委嘱

中山副市長より、各委員に委嘱状を授与

（2）委員会開催

1）委員長、副委員長の選出

・本委員会の委員長に野嶋委員、副委員長に井上委員を選出。

（3）議事に関する各委員からの主な意見

1）立地適正化計画の概要についてはどうか。

（委）計画策定の期間について

⇒（事）3 カ年で進める予定である。

（委）都市機能は広域的なものと市単位のものがあるが、どう捉えるのか。

⇒（事）本計画で位置付ける都市機能は、市単位のものが基本となる。

（委）計画には、本来広域的なものを含む必要があるが、この制度の限界・課題がここにある。開発の届出が厳しいか緩いかはこれからの運用による。誘導施設も広域的に使っていく施設である病院や地区レベルで使っていく小学校や公民館があるので、どのように一緒に定めていくか難しいところである

2) 敦賀市の基礎調査について

3) まちづくりの課題について

4) 計画策定の全体スケジュールについて

(委) 将来人口が社人研ベースの値と人口ビジョンベースの値が示されているが、どちらを基本とするのか。

⇒ (事) 国土交通省から出されている手引き等では、社人研の推計データを採用すべきであるとされていることから、本市においては社人研のデータを用いて解析していく。

(委) 立地適正化計画は、都市マスに即して策定するとのことだが、都市マスのような地域別構想は作成するのか。

⇒ (事) 全体計画のみである。

(委) 立地適正化計画では、既成市街地のエリアをどう捉えるのかが大切であり、都市マスの考え方をどこまで踏襲できるかが悩ましい点である。

(委) 高齢化やまちなかの空洞化など何か地域コミュニティレベルで問題はないか

⇒ (委) 色々問題はあるが、解決策はなかなかない。一番の問題は空家問題であると思う。

(委) 空家対策はこれから検討しなければならない大きな問題である。

(委) 駅前では、まちコンやイルミネーション等の取り組みをやってきたが、今回の計画では交流人口について、考えないのか。

⇒ (事) 観光・交流に資する誘導施設の位置づけ等を盛り込むことが可能であるので、今後の策定の中で検討していきたい。

(委) 交流人口を考えることは、重要なことである。立地適正化計画は将来の暗い計画のような印象があるが、少しでも明るい将来を描けるような計画にしていきたい。

(委) まちなかに住んでいて一番感じるのは、人が全然歩いていないという点である。本町周辺では、観光客は歩いていても市民が歩いていない。

駅周辺はいろいろな取り組みがあり、賑わっている印象であるが、敦賀は港まちであるため、港周辺をもっと活用してはどうか。

⇒ (事) 庁内でも様々な計画が検討されており、それらと整合を図りながら、今後の方針や誘導施策を検討していきたい。

(委) 立地適正化計画は、戦略的な視点が重要であり、都市機能誘導区域も広げすぎでは問題がある。

(委) 人口減少の状況をみると、拡大の方向はあり得ないと思う。小さな範囲で集約した方が賑わいや活気も感じられると思う。縮小と聞くと嫌な感じであるが、「みんながまちなかに集う」という計画になればよい。

(委) 用途地域外の郊外部では何か問題はないか。

(委) 若い人達は車で移動しているので、今のところは問題は感じていないようである。やはり空家が問題ではないか。

(委) 何か良い方法はないか。

(委) 非常に対応が難しい問題である。空家や空き地の活用を促進させるためには、行政側の補助などの施策がもっと充実されるとよい。

(委) 市の総合計画に即すると説明があったが、総合計画はかなり抽象的な表現が多く、具体的に書かれていないので、立地適正化計画はあまり総合計画にとらわれすぎなくてもよいと思う。

(委) 集約化を図ることで、逆にまちがしぼんでしまわないように魅力ある計画としていきたい。

(5) その他

事務局より、第2回策定委員会開催の予定について説明

- ・ 2月中旬頃を予定している。

3 閉会

※(委) = 策定委員会の委員

(事) = 事務局(都市政策課)